

2016年4月20日

日本国際連合学会 会員のみなさんへ

日本国際連合学会に、創設後 18 回目の春がめぐってまいりました。日本列島をサクラが駆けぬける季節の息吹を感じながら 2016 年度研究大会のご案内をさせていただこうと思っておりましたその時に、九州地域で大規模な地震災害が起こりました。被災された方々と地域の会員のみなさんに学会として心からのお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈りいたします。

さて、2015 年から 2016 年にかけて、本学会にとって意義深い記念の年が続いております。国連が古希を迎えた昨年は、共通テーマを「創設 70 周年の国連とその課題」として、学会としては初めて東京の公共施設（国立オリンピック記念青少年総合センター）を会場に研究大会を開催いたしました。

第 18 回目となる今年の研究大会は、共通テーマに「日本の国連加盟 60 周年」を掲げ、6 月 11 日（土）に上智大学のご協力を得て開催いたします。1956 年 12 月 18 日に日本を 80 番目の加盟国とする決議が採択された総会本会議場で重光外相が行った演説や、厳寒のニューヨーク国連本部前で繰り広げられた日本の国旗掲揚の場面などが思い起こされます。日本と国連の 60 年の歳月のなかにどのような歴史が刻まれ、今後にいかなる課題が待っているのでしょうか。日本のありようは、国連が傘寿への旅を続ける上で、どのような意味を持つのでしょうか。

午前中は、過去 60 年の日本の国連外交ならびに日本における国連研究を、実務・研究の両側面から回顧するセッションです。国連、日本の国連外交、そして日本における国連研究に造詣の深い会員の方々からご報告いただきます。午後は「グローバル・ガバナンス—国連と日本—」と題し、グローバル・ガバナンスにおいて国連と日本が果たす役割と課題を 5 つの多様な側面から議論するパネルを企画いたしました。なお、本研究大会は、外務省から「日本の国連加盟 60 周年記念事業」としての認可を受け、そのロゴを付して開催されます。

また、6 月 10 日（金）の夕刻には、上智大学との共催で、「開発・人道支援に対する日本と市民社会の役割—国連人道サミットを受けて」と題する講演会が開催されます。6 月 11 日には、研究大会会場前で、模擬国連の学生たちによるポスターセッションも企画されています。

今回の研究大会と合わせて、日本の国連加盟 55 周年目の 2011 年に発行した学会誌『国連研究』第 13 号（特集「日本と国連」）をお読みいただくのも意味あることと思います。学会の知の営みが年月を経てつながり積み重ねられてきていることが見えてまいります。

6 月の両日を通して多くの会員のみなさんにご参加いただき、活発な議論ができますことを心待ちにしております。傍聴も大歓迎ですので、どうぞ多くの方々にもご案内くださいませ。

日本国際連合学会 理事長 大泉敬子